

平成30年4月25日

助成事業実施報告書

団体名 東京陸軍少年飛行兵学校遺跡の保存継承と平和祈念の会
副会長 鳥海賢三

1. 助成プロジェクト名

東京陸軍少年飛行兵学校遺跡の保存継承と平和祈念プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東京陸軍少年飛行兵学校の生徒と職員による「東京少飛会」は、海軍予科練のような資料館の創設を求めてきました。この活動を平成28年9月に引き継ぎ、市民を交えて陸軍少飛平和祈念館―多摩戦争と復興の資料館の建設を目指しています。会長は元少飛第19期生、会員数は約20名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東京陸軍少年飛行兵学校は、海軍予科練と並んで終戦時の特攻を担った陸軍少飛の養成校です。東京に本校があったことを記録に留め、茨城霞ヶ浦の予科練平和記念館、南九州の知覧特攻平和会館と並ぶような、少飛の平和祈念館が必要と考えています。同時に、多摩地域に集中していた航空機の軍需工場なども記録し、元少飛の方々の思いを受け止め、戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継ぐことが大切と考えプロジェクトを進めています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

(1)今年度は高齢化した元少飛の方々のビデオ証言の収録を重点とします。90歳前後となっていてビデオ収録のタイムリミットに近づいています。(2)元少飛の方々の慰霊の機会などを通じて活動の周知を図り協力を進めます。(3)多摩地域の戦争遺跡等の住民団体と連携し、行政等への要望を進めます。(4)元少飛や専門家の講演会を定例化し、会の拡大と会員の増加を図ります。(5)九州大刀洗の少年飛行兵平和記念館や鹿屋の航空記念館、知覧特攻平和会館等との連携を図っていきます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今年度助成金を受けて「陸軍・少飛平和祈念館―多摩・戦争と復興の資料館の構想」という会のパンフレットを作成しました。予科練平和記念館や満蒙開拓平和記念館などの平和施設で展示配布するとともに、多摩地域の平和関連の市民団体などにも配布、周知を図っています。また隔月で、元少飛や専門家の講演会を実施、市の広報を見て一般市民が参加するなど、徐々に活動が広がり始めています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今年と来年の2年間で、元少飛の方10~20人を探し出し、ビデオ証言を収録するために、全力を注ぐこととします。時間との競争になっています。同時に、平和関連の市民グループや、多摩の戦争遺跡の専門家、関連企業との連携を深め、平和祈念館の設立に向けて、行政や政治家等への要望を進めていく必要があります。費用や立地等の大きな課題があり、元少飛の方々の遺品等を整理しつつ、計画的にプロジェクトを進めていく必要があります。

7. 参考資料

パンフレット「陸軍少飛平和祈念館―多摩戦争と復興の資料館の構想」

「平成29年度活動報告書」